

国際化学肥料ニュース（2023年7月）

肥料業界の2023年7月動態

- * 7月第2週（7月3～9日）の尿素国際相場は3週連続高騰している。6月初頭に比べて各輸出地のFOB価格約100～120ドル/トンの値上げだが、輸入地のCFR価格の値上げ幅がまだ30～60ドル/トンに抑えられている。
尿素相場の高騰原因はロシア工場のメンテナンスによる休業およびマレーシアの2工場、ブルネイの1工場が故障で操業を停止していること。東南アジアの停止した3工場は大粒尿素的の工場で、年間生産能力が約280万トンである。操業停止で、大粒尿素が供給不足に陥っている。

- * オランダ政府は10月1日から北部にあるGroningenガス田の天然ガス生産を停止し、2024年10月にガス田を完全閉鎖することを発表した。Groningenガス田は西ヨーロッパの最大ガス田で、最大の天然ガス供給源でもあった。資源の枯渇で60年生産歴史に終止符を打つことになった。このガス田の閉鎖に加え、ノルウェーもガス田のメンテナンスで生産量を減らしているため、6月のEU天然ガス価格が35%も高騰した。EUの窒素肥料はすべて天然ガスを原料として生産されるもので、天然ガス不足による窒素肥料生産量の減少を見越して、EUのバイヤーは世界中に尿素など窒素肥料を買い集めている。

- * カナダのブリティッシュコロンビア州の港湾労働者7000人と操業会社49社が7月1日から一斉にストライキを始めた。このストライキはInternational Longshore and Warehouse Union (ILWU) が主導するもので、バンクーバー港を含む計30港の操業が停止し、Campotex社のバンクーバー港を経由する加里の輸出が完全に止まり、アジアの加里市場に悪影響を及ぼす。

- * ベトナム政府は7月15日からDAPとNPK化成肥料の輸出関税を0にする法令を発表した。この数年ベトナムのDAPとNPK化成肥料の生産能力が大幅に増強され、国内需要を満たすうえ、余剰分が出て、輸出に活路を見出そうとしている。

- * 7月第3週（10～16日）の尿素国際相場は大幅の値上がりが見られた。特にロシア産尿素的のFOBバルト海と黒海は前週より45～50ドル/トンも上がり、4か月ぶりに300ドル/トンに逆戻りした。エジプトなど北アフリカ産大粒尿素的はEUと南米からのプッシュが多いため、FOB370～380ドル/トンになり、1ヶ月前より100ドルも上昇し、EUの大粒尿素的のCFR価格が3ヶ月ぶりに400ドル/トン突破した。CFRブラジルでも4

週間前より約 70 ドル上がり、340～360 ドルになった。ただし、東南アジアは需要期が過ぎたため、尿素の CFR 価格が小幅に上がり、330～340 ドル/トンとなった。

尿素の国際相場高騰の原因は供給と需要のバランスが崩れて、特に南米と EU は作物の肥料使用シーズンに入り、在庫不足で集中的に輸入に走ったためである。尿素だけではなく、硝安、硫安など窒素系肥料の価格も吊り上げられている。硫安の CFR ブラジルは 175～215 ドル/トン、硝安の CFR ブラジルも 180～185 ドル/トンに上がった。この動きは 8 月も続くだろう。

* ベトナム税関の統計によれば、2023 年 1～5 月の化学肥料輸出量が 8.9%減の 69.22 万トン、金額が 42.2%減の 2.89 億ドルである。ただし、5 月に限って、化学肥料輸出量が 17.5%増の 15.5 万トン。ベトナム産化学肥料の最大輸出先はカンボジアで、1～5 月の輸出量が 22.77 万トン、2 番目は韓国の 4.78 万トン、3 番目はマレーシアの 4.55 万トン。化学肥料輸出減の主な原因は輸出関税があり、ほかの輸出国（主に中国）に比べて割高である。なお、7 月 15 日から化成肥料の輸出関税が 0 になる。

* 7 月 12 日、バンクーバー港の港湾労働者によるストライキが終了した。13 日間のストライキで、バンクーバーを経由する輸出と輸入が止まり、経済活動に大打撃を与えた。カナダ産塩化加里の輸出も大幅に減少し、7～8 月の塩化加里相場に影響を及ぼす。

* 中国税関の速報によれば、2023 年 6 月の中国化学肥料輸出量が 52.3%増の 283 万トン、その内訳は尿素 22 万トン、硫安 114 万トン、DAP93 万トン、MAP5 万トン。1～6 月の化学肥料輸出量が 35.1%増の 1272 万トン、その内訳は尿素 101 万トン、硫安 581 万トン、DAP241 万トン、MAP93 万トン。

一方、2023 年 6 月の化学肥料輸入量が 86.2%増の 121 万トン、その内訳は塩化加里 105 万トン、NPK 化成肥料 12 万トン。1～6 月の化学肥料輸入量が 31.7%増の 604 万トン、その内訳は塩化加里 522 万トン、NPK 化成肥料 63 万トン。

* カナダの Nutrien 社はバンクーバー港での港湾労働者のストライキにより、Neptune Terminals を経由する塩化加里の輸出能力が失われたため、同社の Cory 加里鉱山の生産量を削減することを発表した。Cory 加里鉱山は Nutrien 社の主力鉱山で、塩化加里の年間生産能力 300 万トン。生産量の削減により、塩化加里の国際相場に影響を与えることが確実になる。実際に大粒塩化加里の CFR ブラジル価格が 7 月第 3 週（10～16 日）にすでに 335～340 ドル/トンに上がり、7 月末納品の場合は 345 ドル/トンが要求された。

- * インドと主要加里メーカーが締結した 2023 肥料年度上期の塩化加里輸入基本契約 (CFR422 ドル/トン) が 9 月 30 日に切れることを受け、下期の塩化加里輸入基本契約についてすでに交渉が進んでいる。インド側は中国の輸入基本契約と同様に CFR307 ドル/トンを要求するが、加里メーカー側は 315~322 ドル/トンと応酬している。

- * 7 月第 4 週 (17~23 日) の尿素国際相場は引き続き上昇している。エジプトやアルジェリアの北アフリカ産大粒尿素的の FOB 価格は今年 3 月以来に 4 か月ぶりに 400 ドルに戻って、6 月上旬に比べてトン当たり約 120 ドルも値上がった。
 尿素価格高騰の原因は主に三つある。一つは南米が肥料需要期に入って、尿素的の需要が高くなった。二つ目は東南アジア、ナイジェリアなどの尿素プラントがトラブルにより生産が止まり、輸出ができなくなった。三つ目はロシアが 7 月 18 日から黒海穀物イニシアティブを中止することを表明して、ウクライナの小麦など穀物とロシア産化学肥料の輸出が阻害される恐れがあり、各国が食糧安全保障のために化学肥料の確保に走った。従って、尿素的のほか、DAP、塩化加里などの国際相場も値上がりに転じた。

- * ベラルーシ第 1 副総理 Nikolai Snopkov 氏はベラルーシのカシェンコ大統領と会談した後の記者会見で、2023 年に 800 万トン塩化加里を輸出することを目標にすると述べた。2021 年 6 月から始まったベラルーシへの経済制裁により、2022 年の塩化加里輸出量が 67%も減少した。ベラルーシは制裁を受けているリトアニア経由の海運ルートに代わって、ロシアと中国を経由する鉄道輸送に変えて、輸出を続けている。鉄道による陸送ルートでは物流コストが 2~2.5 倍も上昇したが、加里の輸出販売には有効であるとも述べた。

- * イギリスにある CF Fertilizers UK 社はイギリスでの肥料事業を継続するために Billingham Complex にあるアンモニア工場を永久に閉鎖することを提案した。その理由はイギリスの天然ガス価格が高く、Billingham でのアンモニア生産はアンモニアの輸入に比べて長期的にはコスト競争力がないということである。その閉鎖により最大 38 名の労働者が解雇される見込みである。Billingham にあるアンモニア工場はすでに 2022 年 8 月から閉鎖され、輸入アンモニアを使って硝安肥料と硝酸の生産を継続している。

- * オーストラリアの Minbos Resources 社は開発中のアンゴラ Cabinda りん鉱山から採掘されるりん鉱石を同国の Grupo Carrinho 社に供給する覚書を締結し、2024 年から 2030 年までの 7 年間に年間最大 86.9 万トンりん鉱石を供給する内容である。Cabinda りん鉱山は 2023 年下期に稼働し始め、年間 150 万トンりん鉱石の精鉱を生産する予定である。

- * 7月25日、インド IPL 社は新たに尿素国際入札を発表した。8月9日締め切りと開札、9月26日まで船積みという条件である。購買数量は未定だが、100～150万トンを目標としている。これは今年第3回の尿素国際入札である。
- * International Longshore and Warehouse Union (ILWU) は7月19日からカナダバンクーバー港での港湾労働者のストライキを再開すると発表した。その影響で、カナダの Canpotex 社は7月19日から塩化加里輸出の新規見積を出さず、すでに出していた見積もすべて撤回した。Canpotex 社は通常毎年3つの港から約1200万トン塩化加里を輸出して、そのうちの70%はバンクーバー港の Neptune 埠頭を経由している。輸出の停滞により、カナダの Nutrien 社は7月上旬から始まった Cory 加里鉱山の減産に加え、Rocanville 加里鉱山の生産量も削減すると発表した。
- * ロシア政府の最新統計データによれば、2023年1～5月ロシアの加里生産量が前年同期より12.1%減少した。ウクライナ侵攻により西側から経済制裁を受け、2022年の加里生産量がすでに2021年より32%減の730万トン、2023年に入っても状況が改善されず、加里生産量が減り続けている。
- * 6月中旬以降の尿素相場の好転に伴い、硫安の国際相場も上がってきた。主要地域の7月第4週（17～23日）と第5週（24～30日）の硫安価格を下記の表にまとめる。

地 域	価格（ドル／トン）	
	7月17～23日	7月24～30日
中国カプロラクタム硫安粉品 FOB	125～135	130～145
中国硫安ブリケット品 FOB	160～165	170～185
北西欧のカプロラクタム硫安粒状品 FOB	259～308	260～310
北西欧のカプロラクタム硫安粉品 FOB	146～179	144～183
東南アジアカプロラクタム硫安粉品 CFR	137～150	137～150
ブラジルカプロラクタム硫安粉品 CFR	155～165	170～180
ブラジル硫安ブリケット粒状品 CFR	185～195	195～215

- * 7月第5週（24～30日）の尿素国際相場は6週間連続の値上げとなった。設備の故障とメンテナンスのために約1ヶ月停止したマレーシアの2尿素工場が稼働したが、ブルネイの尿素工場が止まったままである。また、ロシアの一部尿素工場も定期メンテナンスのために稼働を止まっている。ナイジェリアの尿素工場も電力不足で、減産している。そのため、東南アジアとナイジェリア、ロシアからの尿素輸血量が減少し、インドの尿素国際入札も加えて、市場では供給不足という危機感に煽られ、高値が続く見込みである。

- * エジプト政府は国内 3 社の尿素メーカーが尿素輸出許可証制度を違反することで、その尿素輸出を停止させた。それにより、エジプト尿素の輸出量が急減し、7 月第 5 週の大粒尿素 FOB 価格が 420~470 ドル/トンに上昇し、6 月初頭に比べ、140~170 ドルも高くなった。
- * ネパール政府は 2023~2024 財政年度に化学肥料の購買予算を大幅に増加する。財務大臣 Prakash Sharan Mahat 氏は化学肥料の購買に 300 億ネパールルピー（約 2.29 億ドル）を支出すると述べた。2022~2023 年度の化学肥料購買予算は 150 億ネパールルピーで、2021~2022 年度の予算は 120 億ネパールルピーであった。

大手各社の営業業績

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * エジプト大統領 Abdel-Fattah al-Sisi 氏はエジプトがスエズ県の El-Sokhna にりん酸系肥料工場を建設すると正式に発表した。この化学肥料工場は地元のりん鉱石資源を利用してりん酸肥料と化成肥料を生産する計画である。中国の WUHUAN 社とイタリアの Ballestra 社が設計と設備、施工を担当する。El-Sokhna 地域にすでに 2023 年春季に窒素肥料工場が完成し、稼働している。
- * 2023 年中国は 476 万トンの新規尿素生産能力が稼働され、年末には尿素生産能力が 7,922 万トンに達する見込みである。上半期にはすでに 130 万トンが稼働され、下半期の 7 月~8 月に 170 万トン、第 4 四半期にも 176 万トンの新規生産能力が完成し、稼働し始まる。

その他

- * ドイツの BASF 社とノルウェーの Yara 社はアメリカのメキシコ湾に低炭素アンモニア工場を開発・建設するために共同研究を行うことに合意した。両社は低炭素アンモニアの世界的な需要の高まりに応えるため、年間総生産能力 120 万~140 万トンのプラントの実現可能性を検討している。
- * ベトナム政府の 7 月 15 日から化成肥料輸出関税を 0 にすることを受け、ベトナム肥料協会は尿素と過リン酸石灰の輸出関税も 5%から 0 にするように政府に要望書を提出した。その理由はベトナムの尿素生産能力がすでに 250 万トンに達したが、国内需要量が 180 万トン未満で、生産を維持するために輸出しかない。しかし、昨年からブルネイに 180 万トンの尿素工場が稼働され、東南アジアの市場争奪が激しくなっている。また、ベトナムの過リン酸石灰生産能力が 150 万トンだが、国内消費量が 50 万トンしか

ない。これらの肥料の輸出関税を 0 にすることで、国際市場に競争力を持たせ、雇用、
税収と外貨稼ぎに活路を見出す必要があるという。

- * ドイツの ThyssenKrupp nucera 社はオランダの SwitchH2 BV 他 3 社とコンソーシアムを結成し、洋上で産業規模の浮体式グリーン水素およびアンモニアプロジェクトを開発する。そのコンセプトは浮体式生産積出船（FPSO）に風力発電で得た電力を利用して、海水を電気分解して水素を得て、その水素をアンモニア合成に使うことである。2023 年 4 月にオランダ政府から 300 万ユーロの補助金を得て、2027 年に開発を終え、稼働させる計画である。